



CONSERVATEUR

作 : Ando&purpurin
デザイン : yoshiwo



ルールブック

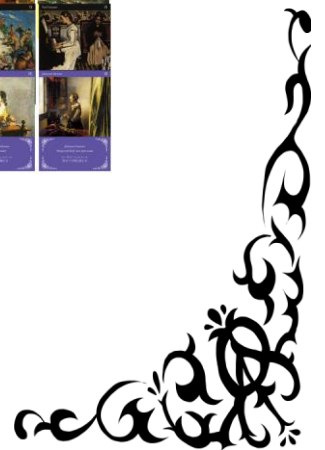


1. ストーリー

フランスの美術館を取り仕切るコンセルヴァトゥール（学芸員）達は今日も美術品の整理に大忙し。ダヴィンチの絵は何枚持ってるんだっけ？向かいの美術館にいっぱい飾ってあるルノワールはうちにはあんまりないのかな？早く整理しないと開館時間に間に合わないぞ！

2. コンポーネント

・ 絵画カード 64 枚 (8 色×8 枚)



3. 目的

プレイヤーは自分からは見ることでできない自分の手札を予想して手札を整理していきます。予想を繰り返して最も早く自分の手札をなくしたプレイヤーがゲームに勝利します。

4. 準備

ゲームの準備は必ず2人以上で行ってください。

以下では、AさんとBさんの2人が作業を行う場合の流れを記しています。Aさんが準備をしている様子をBさんは決して見てはいけません。逆にBさんが準備している様子をAさんは決して見てはいけません。他のプレイヤーは一切の準備の様子を見ないか、Bさんの準備を手伝ってあげてください。

一番最近美術館に行ったプレイヤーをスタートプレイヤーとします。

以下は **4人でプレイする場合**の準備です。2-3人でプレイする場合は下記「6. 2-3人プレイの場合」を合わせてお読みください。

Aさんの準備)

- ① 全てのカードを表にして各画家8枚ずつの束を作ります。
- ② 8つの束を裏向きにして、Bさんと作業を交代します。

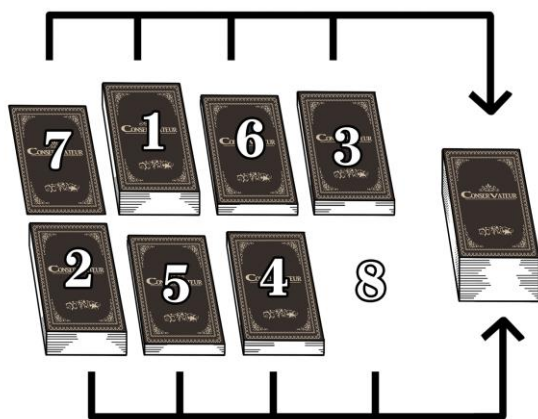
作家別に8枚の束を8つ作る



Bさんの準備)

- ③ 8つの束をランダムに並べ替えて、各束から順番にカードを抜き出します。
1つ目の束からは1枚、2つ目からは2枚・・・8つ目からは8枚という風にして
 $1+2+3+4+5+6+7+8=36$ 枚のカードを抜きだし『山札』とします。

8つの束から1-8枚のカードを取り出す



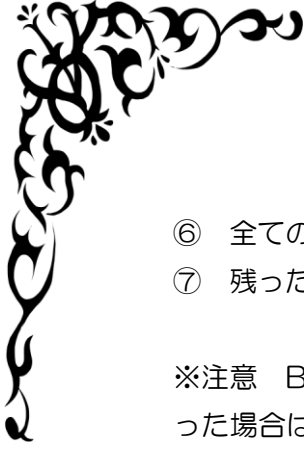

取り出したカードを合わせ山札とする

- ④ 残された28枚のカードも1つにまとめ、よくシャッフルして1枚を選び出します。
ランダムに選ばれたその1枚を『山札』に加えます。

残されたカードをシャッフルし 1枚ランダムに山札に追加する



- ⑤ 『山札』を最後によくシャッフルしましょう。ゲームで使うのはこの37枚のみで、残されたカードは今回のゲームでは使いません。

- 
- 
- ⑥ 全てのプレイヤーに目を開けてもらい、各自の手札を9枚ずつ配ります。
 - ⑦ 残った1枚はスタートプレイヤーの右隣のプレイヤーに配られます。

※注意 Bさんは準備作業中に一切カードの表側を見てはいけません。うっかり見てしまった場合は、他プレイヤーとその情報を共有するか、もしくは準備作業を①からやり直してください。

全員の準備)

- ⑧ 最後に、配られた手札を他のプレイヤーから表側が見えるようにして持ちます。自分の手札は絶対に自分からは見えないように気を付けてください。



5. 進め方



スタートプレイヤーから時計回りにゲームを進めます。プレイヤーが各自のターンでやることは2つです。

- ① 右隣のプレイヤーからカードを1枚取る。
- ② 取ったカードと同じ画家の絵画が手札に何枚あるか(取ったカード含む)を予想する。


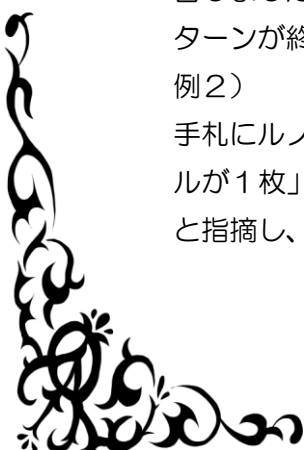
ここで、予想した枚数が正しければその画家のカード全てを場に出すことができます。予想の答え合わせをしてカードを場に出すのは自分ではできませんので、他のプレイヤーに手伝ってもらいましょう。予想した枚数が正しくない場合、引いたカードは元々持っていたカードと同様、自分に裏面を向けて手札に加えます。ただし、その後シャッフルする必要はなく、どの場所に引いたカードを加えたかは覚えておいてかまいません。

例1)

手札にゴッホが2枚ある状態で右隣のプレイヤーからゴッホを引き、「ゴッホが2枚」を宣言しました。手札にはゴッホが3枚あるため、周囲のプレイヤーが「違います」と指摘し、ターンが終了します。

例2)

手札にルノワールが1枚もない状態で右隣のプレイヤーからルノワールを引き、「ルノワールが1枚」を宣言しました。予想は正解しているので、周囲のプレイヤーが「正解です」と指摘し、手札のルノワールのカードを捨てさせます。



予想が終わったら左隣のプレイヤーにターンが移ります。

- ・勝敗

予想が成功した時、もしくは左隣のプレイヤーにカードを1枚取られた時に手札が0枚になった場合、そのプレイヤーの勝利となります。手札が0枚になったプレイヤーから順に勝利していき、最後の1人が残るまで続けます。

6. 2-3人プレイの場合

3人でプレイする場合は、画家を1人除き7種類のカードを使ってプレイします。7種類のカードをそれぞれ1~7枚抜き出し最後に1枚を追加するため、計29枚を使うこととなります。手札は9枚ずつ配り、スタートプレイヤーの右隣のプレイヤーのみ10枚配ります。残った1枚のカードは初めから場に出されたカードとして公開します。

2人でプレイする場合は、同様に7種類のカードを使います。7種類のカードをそれぞれ1~7枚抜き出し最後に1枚を追加した計29枚を使って、手札はスタートプレイヤーに9枚、もう一方のプレイヤーに10枚配ります。残った10枚を場に公開します。

7. 注意点

- ・右隣が勝ち抜けた後のカードを取る相手

右隣のプレイヤーが手札を0枚にして勝ち抜けた後は、さらに右隣のプレイヤーからカードを引くこととなります。

このルールによって、カード枚数を予想した後に手札がちょうど0枚になったプレイヤーがいた場合、その右隣のプレイヤーは2回連続して手札を引いてもらえることとなります。

- ・予想の仕方

このゲームは自分の手札にあるカードの枚数を予想しますが、自分の手札以外は全て見えているため、実質的にゲーム全体で使われているカードの枚数を予想することとなります。どの画家が全部で何枚あるかの見通しが立てば手札の枚数を予想することはぐっと楽になります。思考を助けるためにも、場に出されたカードはその種類と枚数がわかりやすいように並べておくと良いでしょう。



・各画家の合計枚数

各画家についてゲームで使う絵画の合計枚数は1～8枚で重複がないように設定されています。ただし、1～8枚を選び抜いた後に最後にランダムに1枚を追加しているため、実際にはどこかの枚数が重複してしまっています。この1枚がどこにあるのかが最後までわからないため、とっっても頭を悩ませます。ゲームに慣れていないうちは1枚追加する処理を行わないのも良いでしょう。

ご意見、ご感想、商品についての問い合わせはこちらにお願いいたします。

PURPURIN

<http://yoshiwo.purpurin.net/>

